

ISO/TC20/SC10「航空宇宙用流体系統及び構成部分」

第48回国際会議報告

令和4年（2022年）11月17日、ISO/TC20/SC10「航空宇宙用流体系統及び構成部分」技術委員会第48回国際会議が開催されたので、その概要を報告する。

1. はじめに

ISO（International Organization for Standardization、国際標準化機構）は、様々な重要技術分野において国際的な標準化や規格策定を推進するために1947年に設立された、スイスのジュネーブに本部を置く国際機関であり167カ国が参加している。ISOには255のTC（Technical Committee、専門委員会）が設置されている。

その中で航空機および宇宙機に関する国際規格を扱うTC20は、国際投票権を有する

15ヶ国（Pメンバー国）と投票権を持たない29ヶ国（Oメンバー国）から構成され、下部組織として11個のSC（Sub Committee、分科委員会）を有している。

主に航空機を中心とした燃料・油圧等の流体系統および構成部分に関する標準化を進めているSC10は、Pメンバー13ヶ国とOメンバー12ヶ国で構成されており、6つのWG（Working Group、作業部会）に分かれて活動している。（下表参照）

表 ISO/TC20/SC10構成

ISO	議長国	幹事国	部会長	日本の参加地位
TC 20 航空機および宇宙機	アメリカ	アメリカ		P
SC 1 航空宇宙電気系統の要求事項	中国	中国		P
SC 4 航空宇宙ボルト、ナット	ドイツ	ドイツ		P
SC 6 標準大気	ロシア	ロシア		不参加
SC 8 航空宇宙用語	ロシア	ロシア		不参加
SC 9 航空貨物及び地上機材	フランス	フランス		O
SC10 航空宇宙用流体系統及び構成部分	ドイツ	ドイツ		P
WG 1 シール及びシールリテーナ			イギリス	
WG 3 チューブ及びチューブ・リテイニング機器			イギリス	
WG 6 固定配管用カップリング			ドイツ	
WG 8 油圧流体及び流体汚濁管理			フランス	
WG 9 油圧作動装置			イギリス	
WG14 ホース・アセンブリ			アメリカ	
SC13 宇宙データ及び情報転送システム	中国	アメリカ		P
SC14 宇宙システム及び運用	アメリカ	アメリカ		P
SC16 無人航空機システム	アメリカ	アメリカ		P
SC17 空港インフラ	アメリカ	アメリカ		P
SC18 材料	中国	フランス		O

2. 会議概要

TC20/SC10第48回国際会議はWebexを活用したオンライン形式で開催され、日本からは株式会社SUBARUの井出委員と日本事務局の原野が参加した。

会議概要は次の通り。

(1) TC20/SC10ステータス報告

昨年の第47回会議の議事録確認の後、国際事務局よりSC10委員会のステータスに関し、2022年はイスラエルがOメンバー国から脱退したため12ヶ国となったこと、SC10ではこれまでに82件の国際規格を発行し現在10件の規格を作成中であること、等の報告が行われた。

(2) SC10活動状況報告

現在、WG3の部会長であるPeter Lewis氏（英国）の任期が2022年末となっているところ、1年間の延長を要請するとともに、BSI (British Standards Institution、英国規格協会) に対し、次の候補者の選任を依頼することが合意された。

(3) SC10関連規格の定期見直し

次の4件の規格に関する5年毎の定期見直しについて合意された。

WG1担当：ISO 23748:2016, Aerospace series - O-ring grooves - Dimensions（継続使用）

WG3担当：ISO 8575:2016, Aerospace - Fluid systems - Hydraulic system tubing（修正）

WG6担当：ISO 9538:2017, Aerospace series - Hydraulic tubing joints and fittings - Planar flexure test（修正）

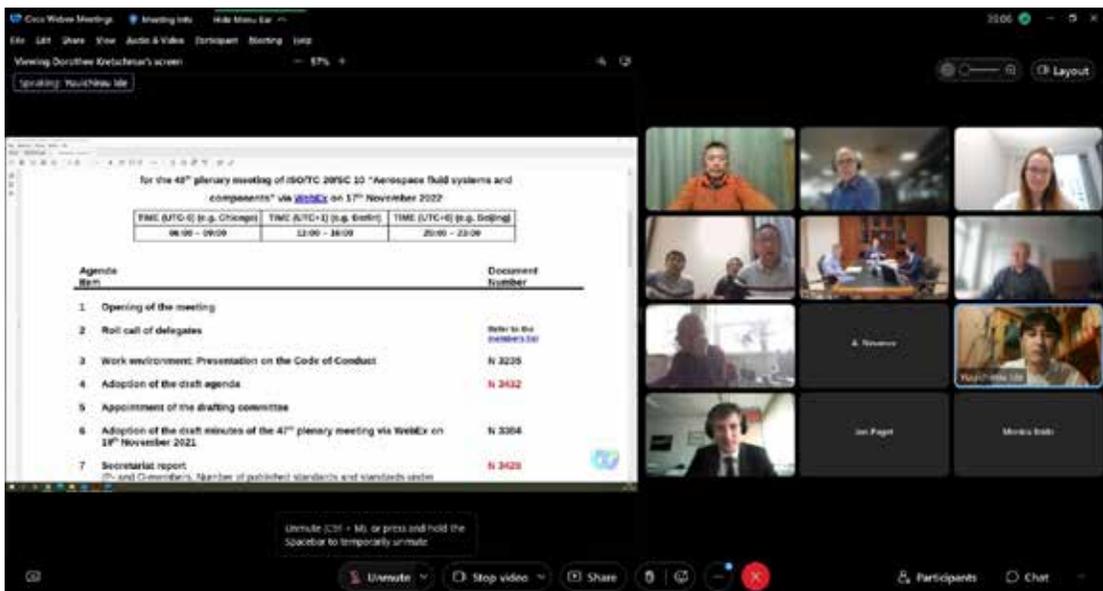
WG9担当：ISO 18170:2017, Aerospace series - AC induction electric motor driven, variable delivery, hydraulic pumps General requirements（修正）

(4) 2023年SC10第49回国際会議の開催時期および場所について

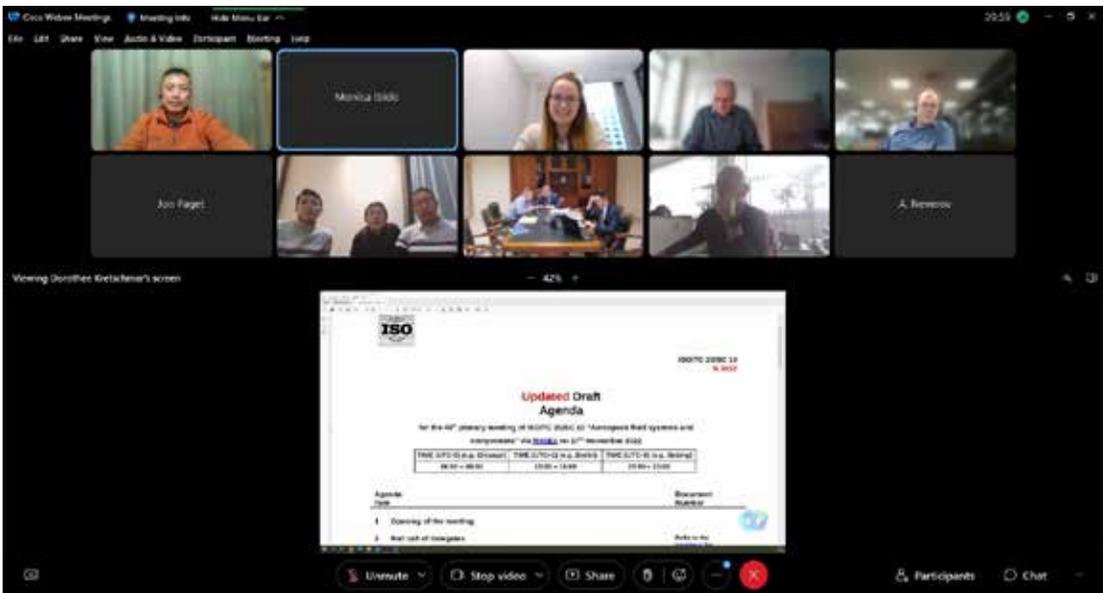
来年のSC10国際会議総会の時期と場所は、次の通り決定された。

【開催時期】：2023年11月7日(火)～9日(木)

【開催場所】：京都（日本）



会議画面



会議画面

3. 所感

SC10国際会議の日本開催については以前から打診を受けていたが、TC20やSC1会議の日本開催と重複したり、東京五輪や新型コロナによる渡航制限等が重なり、延期を繰り返してきた。一方で2024年には東京ビッグサイトで2024国際航空宇宙展（JA2024）が、翌2025年には大阪夢洲で日本国際博覧会

（EXPO2025 大阪・関西万博）が開催される計画があり、来年の受入れを伸ばすと当面日本開催が困難となることから、急遽京都での11月開催が決定した次第である。

SJACはホスト国事務局として受入れ準備を万端に整えるとともに、国内委員各位のご支援を得て国際会議の成功に貢献したい。

〔(一社)日本航空宇宙工業会 技術部 部長 原野 清隆〕



この事業は、オートレースの補助を受けて実施したものです。
<http://hojo.keirin-autorace.or.jp>